

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ソウカダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ニシウラゼミ
創価大学	経済学部	西浦ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) チームリボン	フリガナ) ヤマギシマサシ	10	無
チーム Re♡BBON	山岸将志		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

Microsoft Office PowerPoint 2016

研究テーマ (発表タイトル)

自ら健康を管理する検診当たり前社会を目指して

※必ず企画シート作成上の注意を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

本研究は、女子学生の子宮頸(けい)がん検診の受診率の向上を目的とする。

子宮頸がんは 20 代から発症者数が急上昇するにも関わらず、その年代、特に学生の年代の検診受診率が著しく低い事が問題となっている。この低い受診率の背景には、当事者の知識不足と意識の欠如が問題となっているが、行政や大学ではこの原因解決への取り組みが不十分である。そこで、当事者でもある私たち学生自身が、これを補えるセミナー等を行う事で、子宮頸がん検診の受診率の向上を実現したいと考えた。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

子宮頸がんは女性特有の疾患であり、数あるがんの中で唯一原因がヒトパピローマウイルス (以下、HPV) の感染であると判明している。HPV の感染経路は主に性交渉であり、性交渉をした女性の約 8 割が HPV に感染していると言われている。HPV に感染しても 9 割以上は免疫によって除去されるが、HPV が除去されずに、数年にわたって持続的に感染した場合には、がんになることがあると報告されている。子宮頸がん罹患し、病状が進行すると子宮摘出を余儀なくされ、最悪の場合死に至る。

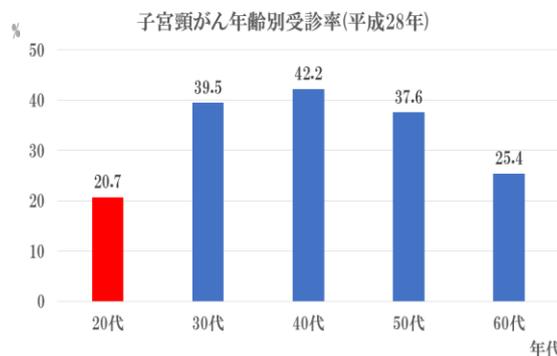
毎年、原因ウイルスである HPV に約 3,000 万人の女性が感染しており、約 1 万人の女性が子宮頸がんを発症している。また、毎年約 3,000 人、1 日に約 8.2 人の女性が子宮頸がんによって命を落としている。

他の 5 大がんが 40 歳前後から発症人数が上昇するのに比べ、子宮頸がんは 20 代から発症の確率が急上昇する。罹患者数も近年増加傾向の一途をたどっており、10 万人のうち子宮頸がんを発症する割合は、1990 年では 30.8 人だったのに対し、2010 年には 63 人と約 2 倍になっている。横浜市立大学の宮城悦子教授によると、以前より発症率が上昇している要因として、初交年齢の低年齢化が挙げられる。

しかし、子宮頸がんは①予防ワクチンの接種と②定期的な検診によって予防・早期発見できるがんである。①予防ワクチンは 2013 年に政府によって定期接種として追加された。しかし、安全性について懸念する声が多かったため、現在、厚生労働省によるワクチン接種の積極的な推奨を一時中断されている。一方、②子宮頸がん検診は「感染から発症までの期間が長いため、定期的な検診により初期の段階での発見ができること」、「陽性的的中度である感度が 86%、陰性的的中度である特異度は 94%と高いこと」から有効性が認められており、厚生労働省は 20 歳から 2

年に1度の検診受診を推奨している。

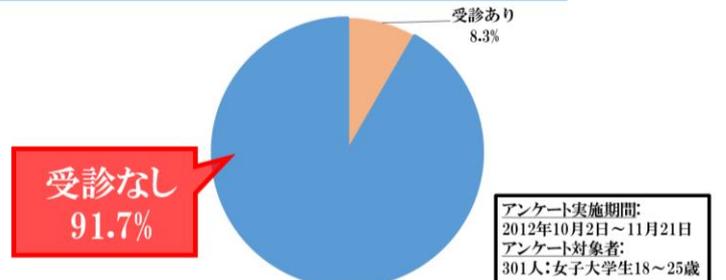
しかし、日本における子宮頸がん検診の受診率は先進諸外国と比較すると低水準となっている。国内では、罹患者数が急上昇し始める20代前半女性の検診受診率が、他の年代と比較して低くなっている。2013年に301名の女性に対して行われたアンケート調査では、91.7%の女子学生が「受診したことはない」と回答しており、大半の女子学生が子宮頸がん検診を受診していないことがわかる。



出典:厚生労働省平成28年度国民基礎調査<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tross/k-tross18/index.html>

## 女子大学生の受診率

Q:子宮頸がん検診を受診したことがあるか?



出典:松崎章(2013)「女子大学生の子宮頸がんの予防に関する知識と意識の現状」[http://repository.aihrosaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10129/3145/1/mf\\_579\\_Matsushashi.pdf](http://repository.aihrosaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10129/3145/1/mf_579_Matsushashi.pdf)

### 3. 研究テーマの課題

本研究テーマの課題は、子宮頸がん検診の対象者である女子学生の「知識不足と当事者意識の欠如」である。私たちは、独自に全国の学生322名に対しアンケート調査(実施期間:2017年7月26日～8月3日)による定量分析を行った。そして、さらに詳細な分析をするため、50名の女子学生へ電話インタビューによる定性分析を行った。その結果、女子学生の子宮頸がんに関する知識不足と当事者意識の欠如が明らかになった。これは、子宮頸がんに関する知識普及と検診の啓発を推進すべき行政と教育機関が、対象者である女子学生に対して十分に啓発できていない事を表している。実際に、地方自治体は、地方から移住してきた住民票の無い学生に対しては検診の通知はがきを送ることはできない。また、住民票のある学生に対しては子宮頸がん検診通知のはがきやクーポン券を送付しても、多くの学生が当事者意識を持つことができず、検診に至らないため、受診率の向上に繋がらない現状がある。更に、教育機関、特に大学においては、子宮頸がんの主な感染経路が性交渉であるという点が、知識普及と検診啓発を行う上でセンシティブな問題であり、大学による取り組みを難しいものになっている。

そこで、私たちは既存の手段ではなく、検診対象者である学生自身が直接啓発を行う事によって、女子学生に知識と当事者意識を芽生えさせることが重要であると考えた。

### 4. 課題解決策(新たなビジネスモデル・理論など)

上記の課題を解決するために、子宮頸がん検診への知識と当事者意識を効果的に与え、女子学生の検診受診者を増加させるプランを提案する。プランの概要としては「学生によるセミナーの開催」「セミナーの全国波及」である。このプランを設定した理由は、2点ある。

- 1 セミナー開催前に複数回行った模擬セミナーの検証結果から、同年代の学生からの啓発が有効的であると判明したため。
- 2 検診受診者数増加のため、このセミナーを拡大していく必要があるため。

以上の理由から、本プランを実施することにより研究テーマの課題解決ができると考える。

### 5. 研究・活動内容(アンケート調査、商品開発など)

まず、セミナー開催にあたり、内容の充実を図るために以下の工夫を重ねた。私たちは一般社団法人シンクパール様と総計144回の打ち合わせを行い、情報の正確性を高めた。さらに、2度の模擬セミナーを行い、女子学生の意見を集め、内容・雰囲気女子学生の好みにものに改善した。

セミナーでは、①子宮頸がんクイズ、②経験者の講演、③質問コーナー、④未来郵便という4つのコンテンツを提供した。①子宮頸がんクイズでは、参加者と同年代の女子学生が発表を行うことで、子宮頸がん検診の内容をより参加者にわかりやすく伝わるよう工夫した。②経験者の講演では、若年層からの子宮頸がん検診の重要性について一般社団法人シンクパール創設者・顧問の難波美智代様にご登壇をいただいた。③質問コーナーでは、参加した女子学生が抱えている女性の身体にまつわる悩みや、女性としてのキャリア形成についての疑問などを難波様に懇談形式でお話していただいた。④未来郵便では、2年後の自分に向けて検診受診を促す手紙を書いた。検診の持続性という検診推進における大きな課題に対し、自分自身による啓蒙という手段を用いて改善を図った。

また、他団体がセミナー開催をスムーズに進めるために、9月20日のセミナーを基に、セミナーの①開催前②開催当日③開催後の一連の流れをまとめたマニュアルの作成を行った。具体的には、協力を要請する団体との連携の流れ、集客のための広報戦略、セミナー内容の詳細等を記した。このマニュアルを用いて、セミナーの全国展開を目指し、全国の医療系学生団体・行政等に対して、提携を依頼した。依頼の際に、PPT資料や活動報告を通して、自分た

ちの活動への熱意や真剣さを相手に分かるように伝えた。加えて、足を運び、セミナーを試験的に行うことで、セミナー当日のイメージをつきやすくした。

## 6. 結果や今後の取り組み

実行された私たちのプランの結果は以下のとおりである。

創価大学の女子学生を対象としたセミナーには合計 108 名の女子学生が参加した。セミナー終了後アンケートでは、次の各項目の満足度を 5 点満点で計測した。結果、全体：4.86 点、クイズ・プレゼンテーション：4.7 点、登壇者の講演：4.88 点、未来郵便：4.79 点と非常に高い評価を得る事ができた。また、セミナー参加者からは「経験者から話を聞いて、理解が深まって良かった」「子宮頸がんをはじめとする病気は他人事ではないと気付きました」など、子宮頸がんに関する知識の普及と当事者意識の芽生えを伺えるコメントを得た。実際に、このセミナーを通して、女子学生 12 名が検診受診、30 名が予約した。大学職員からは「素晴らしい取り組みに感動した」とのコメントをいただき、9 月 26 日付で大学ホームページにて本プロジェクトが掲載された。

### 【セミナーの満足度】

項目名	満足度（5段階評価）
全体	4.86
クイズ・プレゼンテーション	4.70
登壇者の話	4.88
未来郵便	4.79

また、マニュアルを用いて様々な団体にこのセミナーの波及を実現させている。具体的に、他大学では、11 月 14 日には立命館大学、来年 5 月には横浜市立大学で授業内での開催が決定した。また、創価大学女子寮では、女子寮生 95 名を対象に毎年のセミナー開催が決定した。医療系学生団体としては、国際医学生連盟 (IFMSA) の SCORA (性と生殖・AIDS に関する委員会) でのセミナー開催が決定した。現在、山梨大学と山梨県立大学の学習サークル「梨っこ」、札幌を中心に活動する医療系団体「すずらん」、札幌市役所と協同している学生プロジェクト「未来を守ろうプロジェクト」と交渉を重ね、前向きにセミナー開催を検討中である。

加えて、私達の活動内容を子宮頸がん研究の権威である横浜市立大学病院の宮城悦子教授が監修を務める横浜 HPV プロジェクトのホームページに掲載して頂くことが決定した。八王子市役所とは成人健診課の新藤健主査と連携を取っており、2018 年 3 月第 1 週の「女性の健康週間」での共同企画を検討している。

さらに、学外では 9 月 13 日に野田聖子総務大臣や企業の役員合計 300 名を招いて行われた女性健康推進イニシアチブにおいて、チーム Re♡BBON の取り組みを発表させて頂き、その様子が Yahoo!ニュースをはじめ 4 つのメディアに掲載された。ライフネット生命保険株式会社創始者の出口明様からは「まず認知する事から始めないといけないため、このプランは重要だと思う。」との評価を頂いた。加えて、日本婦人科がん検診学会会長、東北大学災害産婦人科分野の伊藤潔教授からも「今まで啓発できていなかった学生に対して、学生自身の力を借りる事により、効果的に啓発できた」とプランに対し好意的な言葉を頂いた。

## 7. 参考文献

・ OECD(2015)

[http://www.oecd-ilibrary.org/sites/health\\_glance-2015-en/08/10/index.html?itemId=/content/chapter/health\\_glance-2015-53-en&mimeType=text/html](http://www.oecd-ilibrary.org/sites/health_glance-2015-en/08/10/index.html?itemId=/content/chapter/health_glance-2015-53-en&mimeType=text/html)

・ Think Pearl

<http://thinkpearl.jp/>

・ 阿南里恵「AYA 世代のがん患者として」

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000023797.pdf>

・ がん検診の受診者数とクーポン券の効果に関するアンケート集計報告書 (2013 年度版 / 中間報告)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000363zv-att/2r9852000003644d.pdf>

・ がんナビ

<http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/cancernavi/report/201004/100467.html>

・ 検査の精度 (accuracy)

<http://canscreen.ncc.go.jp/yougo/11.html>

・ 厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>

・ 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(2015)

[http://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/dl/index.html#mortality](http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/index.html#mortality)

・ 国立がん研究センターがん対策情報センター「地域がん登録全国推計によるがん罹患データ (1975~2010 年)」

[http://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/dl/](http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/)

・ 子宮頸がんから女性を守るための研究会

<http://www.cczeropro.jp/kenshin/img/result/result.pdf>

・子宮頸がんを考える市民の会

<http://www.orangecllover.org>

・子宮頸がん予防ワクチン接種の「積極的な勧奨の差し控え」についての Q&A

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/qa\\_hpv.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/qa_hpv.html)

・日本医師会

<https://www.med.or.jp/forest/gankenshin/data/foreigncountry/>

・日本対がん協会

[http://www.jcancer.jp/about\\_cancer\\_and\\_checkup/%E5%90%84%E7%A8%AE%E3%81%8C%E3%82%93%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9F%A5%E8%AD%98/%E5%AD%90%E5%AE%AE%E3%81%8C%E3%82%93%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9F%A5%E8%AD%98](http://www.jcancer.jp/about_cancer_and_checkup/%E5%90%84%E7%A8%AE%E3%81%8C%E3%82%93%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9F%A5%E8%AD%98/%E5%AD%90%E5%AE%AE%E3%81%8C%E3%82%93%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9F%A5%E8%AD%98)

・平成 28 年度がん検診受診率 50%達成に向けた集中キャンペーン

[http://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/campaign\\_28/](http://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/campaign_28/)

・平成 28 年国民生活基礎調査

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/index.html>

・ヘルスケア大学

<http://www.skincare-univ.com/article/013875/>

・松橋奈(2013)「女子大学生の子宮頸がんの予防に関する知識と意識の現状」

[http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10129/5145/1/mt\\_579\\_Matsubashi.pdf](http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10129/5145/1/mt_579_Matsubashi.pdf)

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経 BP マーケティング社様に作製していただく大会結果 HP に本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。